

令和5年度の決算状況(水道事業)

(1)総括事項

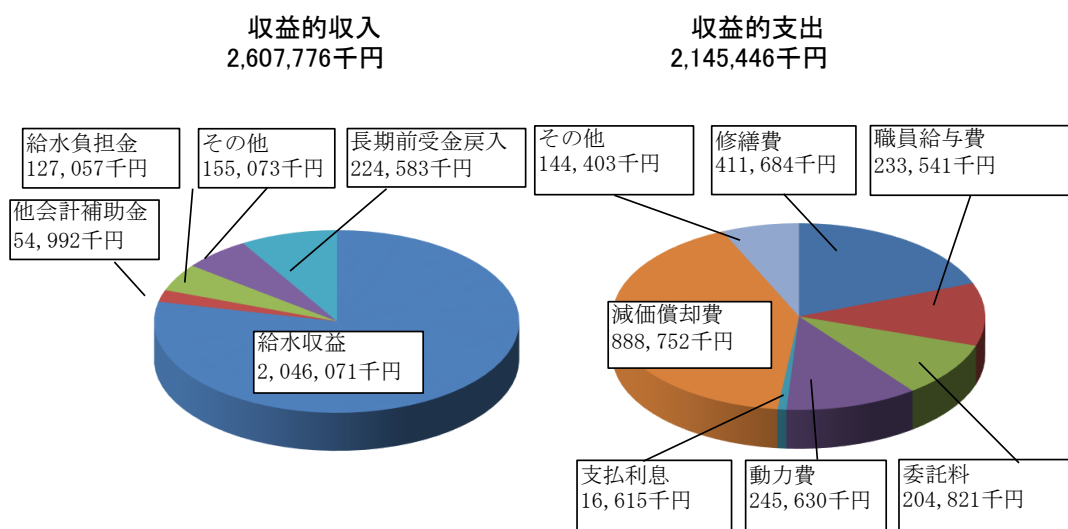
水道水に含まれるPFOS・PFOA濃度が国の暫定目標値(50ng/L以下)を超過していた事案については、公表が遅れたことにより、水道水に対する信頼を損ねました。対策として、活性炭による浄化システムの設置工事(第一期工事)を迅速に実施し、国の暫定目標値を超過しないよう維持しています。

収支状況(消費税抜き)では、収益的収入である水道事業収益のうち、給水収益が前年度より2,452万2千円、その他の営業収益が前年度より1,842万3千円それぞれ減少しました。また、PFOS・PFOA濃度低減対策として新規に他会計補助金5,499万2千円の収入があり、水道事業収益決算額は26億777万6千円となり、前年度に比べ1,473万6千円の増加となりました。

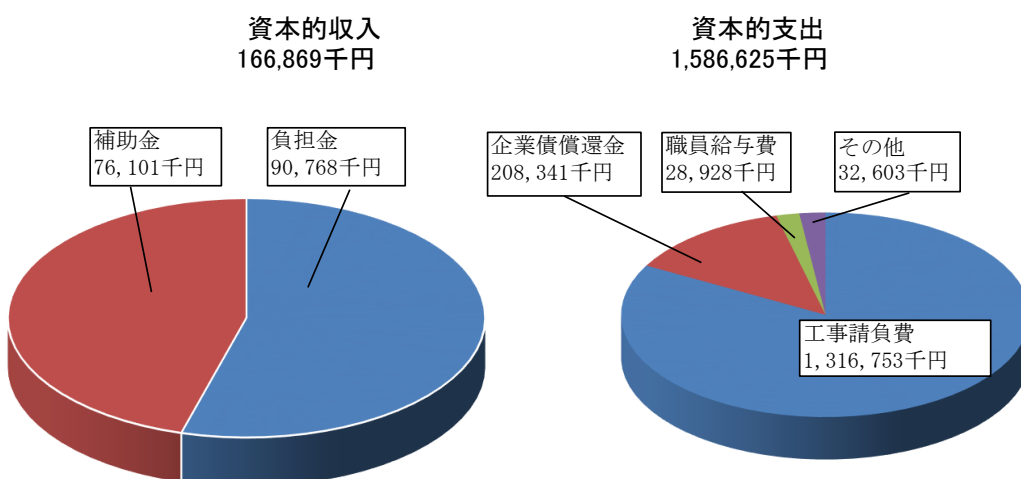
収益的支出である水道事業費用では、薬品費が前年度より3,395万7千円、減価償却費が2,779万6千円それぞれ増加しましたが、修繕費が前年度より7,566万8千円、動力費が3,413万4千円それぞれ減少したことなどにより、水道事業費用決算額は21億4,544万6千円となり、前年度に比べ4,553万2千円の減少となりました。

この結果、当年度純利益は4億6,233万円で、前年度に比べ6,026万8千円の増加となりました。このうち1億9千万円については減債積立金に、2億7千万円は建設改良積立金に処分し、翌年度の企業債償還金及び建設改良事業の財源に充てる予定にしています。

(2)収益的収入及び支出の内訳(消費税抜き)



(3)資本的収入及び支出の内訳(消費税込み)



資本的収支不足額の14億1,975万6千円は、当年度分消費税及び方消費税資本的収支調整額1億706万8千円、減債積立金1億7千万円、過年度分損益勘定留保資金11億4,268万8千円で補てんしました。

令和5年度の決算状況(下水道事業)

(1) 総括事項

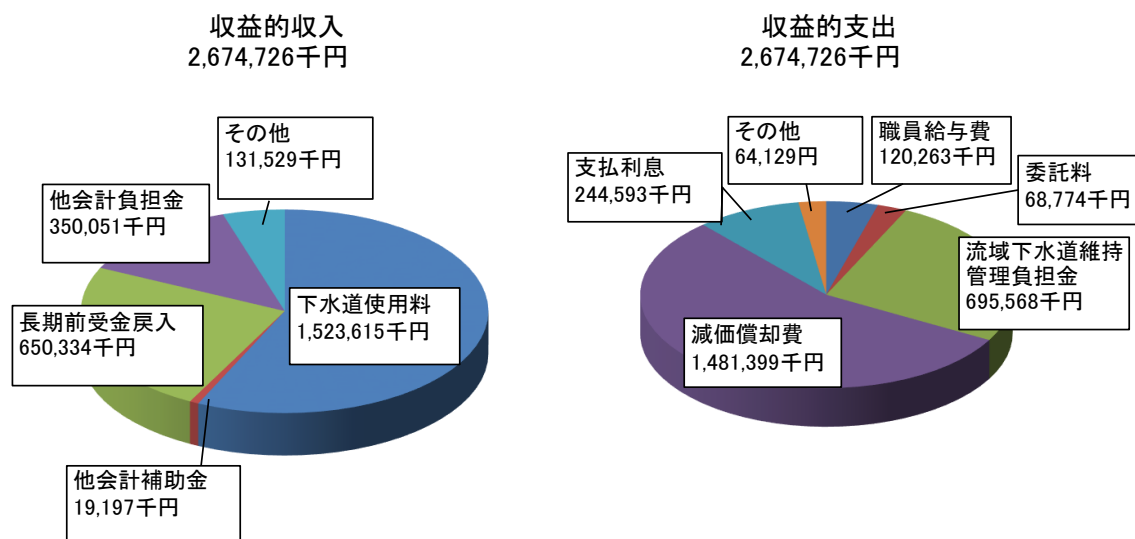
下水道は、公衆衛生の向上や快適な市民生活に不可欠なライフラインです。下水道事業を将来に亘って安定的に運営していくことができるよう、「各務原市下水道事業経営戦略」に基づき、下水道施設を適切に維持管理し、汚水については未普及解消や長寿命化・幹線管渠の耐震化、雨水については浸水対策を、着実に実施していきます。

令和5年度の汚水建設改良事業では、上戸処理分区第1工区管渠埋設工事などの未普及解消事業を着実に実施するとともに、長寿命化事業として緑苑処理分区管渠布設替及び更生工事などを、耐震化事業として岩地幹線外管渠耐震化実施設計業務委託を行いました。さらに、避難所環境充実のため、一次避難所である那加第二小学校・鵜沼第三小学校・八木山小学校・稲羽中学校にマンホールトイレを整備しました。また、雨水建設改良事業については、鵜沼古市場第3雨水幹線築造工事などの排水路整備のほか、雨水流出抑制のための山の前1号雨水調整池外4実施設計業務委託などを実施しました。

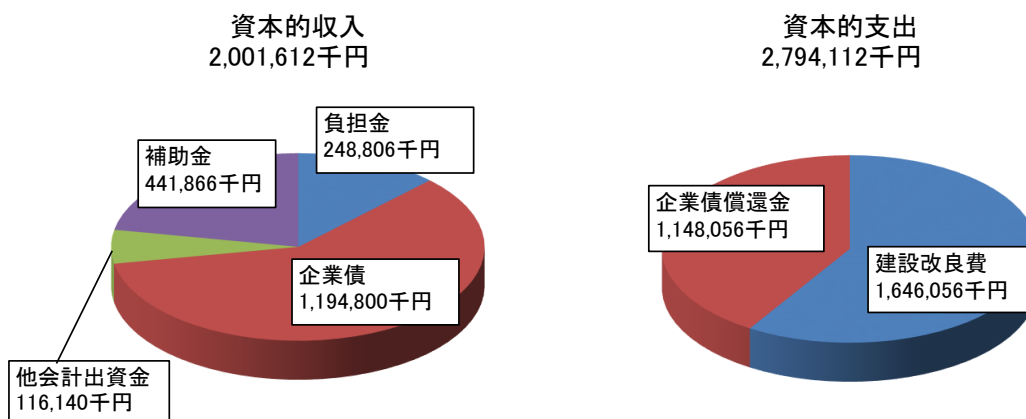
令和5年度の収益的収支状況(消費税抜き)については、下水道事業収益が26億7,473万円、下水道事業費用が26億7,473万円となりました。

この結果、当年度純損益はありませんが、下水道使用料だけでは不足する財源を一般会計からの繰入金で補填しているため、地方公営企業原則である独立採算の達成に向けて、今後も取り組んでいきます。

(2) 収益的収入及び支出の内訳(消費税抜き)



(3) 資本的収入及び支出の内訳(消費税込み)



資本的収入額(翌年度に繰り越される支出の財源に充当する額 3,367万7千円を除く)が資本的支出額に対して不足する額8億2,617万7千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額7,464万5千円、繰越工事資金1,805万9千円、過年度損益勘定留保資金4億4,953万1千円及び当年度分損益勘定留保資金2億8,394万2千円で補てんしました。